



小伝馬町を練り歩くお稚児さん行列の一行

形
満

復刊第二十五号

2015年 12月

身延別院発行

〒103-0001

東京都中央区

日本橋小伝馬町3-2

Tel 03-3661-3996

Fax 03-3663-2766

お
会
式

第七百三十四回お会式法要に百人

身延別院のお会式が十一月三日に開かれました。昨年に続き、今年もお稚児さん行列が日本橋小伝馬町の一帯を練り歩き、法要に参列した約百人の檀信徒が日蓮聖人のご遺徳をしのびました。

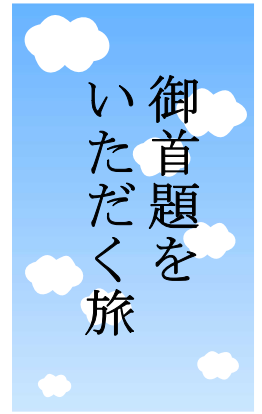
お会式は、日蓮聖人がおなくなりになられた十月十三日のご命日を中心に、全国各地の日蓮宗寺院、教会、結社で行なわれる法要です。今年で七百三十四回を数えました。

身延別院では毎年十一月三日・文化の日にお会式を行っています。たくさんの方の檀信徒さんを迎えるために、お寺では御会式に向けて万灯を準備したり、薄紙で作った花を本堂内に飾ったりと檀信徒さんの協力で会場づくりを進めてきました。また、地域の皆さんに親しまれるようにお稚児さん行列のお稚児さんも募集しており、今年も檀信徒の子どもさん、お孫さん、近所の保育園の子どもさんら十人から、参加のお申し込みがありました。

お会式の当日、お稚児さんたちは彩り鮮やかな衣装に身を包み、きれいに化粧をし、午後一時に家族とともにお寺の前を出発、小伝馬町交差点から本町三丁目交差点へ、そして再びお寺へと約八百メートルの道のお題目と団扇太鼓の音に合わせて練り歩きました。可愛らしいお稚児さんの姿は、道行く人たちからも注目されていました。

本堂の前でお稚児さんとその家族が記念撮影を済ませた後、お会式法要が本堂で厳かに営まれ、参列者は法華経のお自我偈などを誦し、お題目を唱えました。お稚児さんの一人、栗原紗理さん(八歳)が参列者を代表して祭文を読み上げ、日蓮聖人の教えを大切に守っていくことを誓いました。

(大山) (五ページに特集)



第二十五回 山梨県南部町・円応寺

隔絶された地域の法華道場



円応寺の本堂

山梨県と言えば、身延町の日蓮宗総本山久遠寺が思い浮かびます。その身延町の南側にあるのが南部町。静岡県に接していて、経済圏も山梨県甲府市よりも静岡県富士宮市や富士市と言われる地域

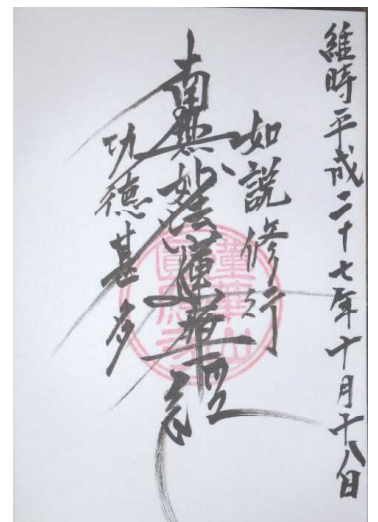
柄です。その南部町のお寺を訪ねてみようと思いい、同町内のお寺を地図でチェックしていたところ、町の中心部から最も遠い場所にあったのが円応寺でした。

お寺に行く途中には「天子湖」という湖があります。「天子」という名前と言いい、人里から離れた場所にあることと言いい、想像が膨らみました。

「お寺を訪ねるのが目的だけど、途中の天子湖を眺めるのも大きな楽しみ！」——そんな気持ちを保持して当日を迎えました。

「JR身延線の内船駅から車なら五十分で到着します」とお寺の方に言われていました。地図ではバスが走っている表記がありましたから、ある程度の道幅が確保されている道路と思っていた。しかし、道幅は林道のような狭さになり、対向車が来たらすれ違えないほどです。行けども行けども杉木立の中を縫うような道が続きます。この先に、本当に天子湖があるのか、円応寺があるのか、不安になってきました。やがて車のカーナビには、走行中の道路に接するように、天子湖が表示されました。

速度を緩め、窓から右側の杉木立を眺めると、急峻な斜面の下に、木立の合間からエメラルド色の湖面が見えました。「なんて美しいのだろう！なんて神秘的なのだろう！」。それが天子湖の第一印象でした。しかし、湖全体を見渡せる場所は、この道路からは最後まで見つかりませんでした。それどころかハンドル操作を間違えたら、斜面の下、湖の方に真っ逆さまですし、対向車が来たら、道路の幅が広がっている場所まで車を後退



させるなどして譲り合わなくてはなりません。たいへんな場所です。

お寺がこの先に本当にあるのか、心配が頂点に達した頃、突然視界が開け、手入れのなされたお茶畑が目の前に現れました。ほどなく円応寺にも到着しました。日蓮宗寺院大観によれば、文明十八年(一四八六)創建の蓮華山法源寺と、天正二年(一五七八)創建の長寿山円応寺が昭和十六年に対等合併し、蓮華山円応寺になったそう。昭和十六年は戦争の真っただ中。戦力増強のため日本軽金属が佐野川ダムを建設し、その結果、天子湖というダム湖ができました。これを機に両寺の対等合併が進められたとのことで、天子湖と円応寺は密接な関係があったのでした。

円応寺のある集落の入り口には、災害時用のヘリポートがありました。そのことからしても隔絶された地域であることを感じました。そんな地域にも法華の道場がかつては二か所もあったのですから驚きです。円応寺は、ふだんは無住のお寺。JR内船駅近くの内船(ないせん)寺が代務をしており、御首題は内船寺のご住職からいただいたのでした。(平山徹・新聞記者)

副住職がインド龍宮寺立正平和祈願法要に出仕



本堂前で記念撮影する一行



龍宮寺本堂



多くの参拝者が集まった



参拝者に対し、加持祈禱を行う副住職

十一月二十四～二十九日まで、全国日蓮宗青年会として副住職がインド中西部のナグプール市を訪れ、日蓮宗寺院・妙海山龍宮寺の立正平和祈願法要に出仕しました。

龍宮寺は日蓮宗の篤信者である小川法子女史とインド人の熱心な仏教徒によって建立され、平成十一年十一月二十三日に盛大な落慶法要が営われました。

一行は十一月二十四日に成田を出発して德里に到着、二十五日にナグプールに向かい龍宮寺の法要を厳修しました。

龍宮寺の境内は現地の人々であふれ、数えきれないほどでした。法要には二十五名ほどの僧侶が参加し盛大に平和祈念式典が執り行われました。

また翌二十六日からは、釈尊降誕の地ルンビニや釈尊涅槃の地クシナガラを参拝し、ネパールカトマンズの世界文化遺産を見学しました。

元気にお練り お稚児さん



本堂の前で記念撮影をするお稚児さんと檀信徒の皆さん、青年会メンバー



別院を出発するお稚児さん行列



発育・学徳増進のご祈禱を受けるお稚児さん



祭文を読み上げるお稚児さんの代表

十一月三日、爽やかな秋晴れの空の下、身延別院のお会式が執り行われ、十人の子どもさんたちがお稚児さん行列に参加しました。
身延別院のお稚児さん行列は、地域にいつも親しまれ、誰にでも開かれたお寺になるようにと平成十九年に二十年ぶりに復活しました。参加人数が足りなかつたり支度会場の十思スクエアが工事のため使えなくなつたりなど、諸事情により平成二十三年から二十五年まで再び中

断していましたが、昨年は三年ぶりに行列が復活し、可愛らしいお稚児さんが練り歩く姿がまた見られるようになりました。
初めは緊張していた子どもさんたちも、行列が始まる頃にはだんだんとうちとけて、当院から本町三丁目交差点までを団扇太鼓を叩いて元気に往復していました。
その後の本堂での法要では、お稚児さんたちは最前列中央に座り、発育増進、学徳増進の御

祈禱を受けました。お稚児さん代表の栗原紗理さん(八歳)が、難しい祭文を堂々と読み上げると、檀信徒の中から大きな拍手がわき起こりました。
法要後には、地下ホールでご供養が振る舞われました。
お会式にたくさんの方の奉納・ご供養を下さつた檀信徒の皆さま、本当にありがとうございます。

寺の動き

お会式のお花作り奉仕



花作りに参加した皆さん

お会式に先立ち、身延別院の檀信徒さん有志が十月二十、二十一日、本堂地下ホールでお花作りに取り組みました。二日間で作った花は、ピンクの花が約二千、白が約四百でした。

お手伝いいただいたのは以下の皆さんです。阿久津喜美子、阿久津一美、伊東精子、石渡日出子、岡本春雄、岡本つね子、勝見登志子、上遠野美津子、小林聡子、酒匂三千子、須賀一美、鈴木秀子、寺久保トシ子、林好江、藤井孝子、藤井麻未(敬称略)。ありがとうございました。

秋季彼岸法要に五十人

身延別院の秋季彼岸施餓鬼法要が九月二十六日午後一時から、本堂で営まれました。檀信徒約五十人が本堂に集い、提婆達多品などのお経を読みました。ご先祖をはじめ、ご縁のあった方々の塔婆をご供養しました。その後に住職から法話があり、終了後に地下ホールでご供養がありました。

お願い！ 豆入れ奉仕



来年の追儺式(節分の豆まき)で用いる豆の袋詰め作業を、一月二十二、二十三日に行います。七センチ四方ほどの小さなビニールの袋に、さかづき一杯分ほどの豆を詰め、袋の口を丁寧に折りたたみ、ホチキスで留めていく作業です。一日と言わず、一時間でも二時間でも都合のつく時間がかまいません。お手伝いいただける方、どうぞよろしくお願いします。

青年会が久米島旅行

身延別院青年会のメンバー十人が、九月四日から六日まで、二泊三日の日程で、沖縄県の久米島を訪ねました。

宿泊は身延別院の総代さんが経営するホテル「サイプレスリゾート久米島」にお世話になりました。地元の食材を使った美味しい料理と全室オーシャンビューの素晴らしい景色に癒さ

れ、天気にも恵まれた素晴らしい三日間になりました。

岩手法華寺団参



本堂にて法華寺檀信徒の皆さんと

十二月六日、岩手県遠野市の法華寺(住職・阿部是秀上人)の檀信徒の皆さん三十人が当院を参拝されました。当院と法華寺は縁が深く、住職の阿部上人は当院初代住職の藤井日静上人が身延山法主だったころ、学生として隨身をされていきました。また、法華寺は開山を当院初代の藤井日静上人に仰いでいます。一行は六日早朝に当院に到着。地下ホールで休憩し、朝食の後、本堂でお開帳を受け、当院初代住職一乗院日静上人、二世妙道院日光上人のご回向を行いました。

副住職が大阪マラソン完走

十月二十五日に副住職が大阪マラソンに出走し六時間二十分で完走しました。副住職は前回の東京マラソンと同様「一般社団法人日青塾」の理事として日蓮宗僧侶の社会活動を世間にアピールするために出走しました。今回も全国日蓮宗青年会会長・日青塾代表理事の龍光寺松森孝雄上人と二人で完走しました。



大阪の街を走る副住職

おにぎ隣人祭りを開催

副住職が十二月十六日(水)グロースリンクかちどきにて親子料理教室・食育イベントを主催している団体「Footit」(代表・吉澤晶子さん)と「おにぎ隣人祭り」を主催し

ました。

吉澤さんが主催している「おにぎ隣人祭り」とは、毎回参加者の「郷土の味」でおにぎりを作り、みんなで食べる体験型食育×地域コミュニティのイベントです。

今回は吉澤さんからのご依頼で、参加者親子の皆様へ仏教的視点から「いただきます」「ごちそうさま」をお話してくださいとお話が副住職にありました。当日参加者の皆さんは一生懸命おにぎりを作り、副住職のお話を興味津々に聞いていました。



法話に聞き入る参加者たち

新年写経会を開催します

来年一月十七日(日)に「新年写経会」を開催します。この「写経会」は昨年より開催し、檀信徒の皆さん以外にも参加者が多く好評を得た企画です。心静かに新年を写経から始めてはいかがでしょうか。当日は『妙法蓮華経』の「お自我偈」を写経します。併せてご先祖様のご供養と新年の幸運を祈願下さい。

大黒様をお祀りしましょう

身延別院では皆様のご家庭に大黒様をお授けいたします。大黒様は「子孫繁栄」「家内安全」「商売繁盛」などを司る福の神です。新年を迎え、心新たに大黒様をお祀りしましょう。また当院では年六回甲子に大黒天祭を執り行います。是非ともご家庭の大黒様をお持ちになつてお参りください。

大黒天枳入り(大) 金、七万円

(中) 金、伍万円

(小) 金、参万円

*大黒様の書入れ、開眼料も含みます

今後の予定

一月 一日(金)〜三日(日)

新年初詣、終日御開帳

十日(日)

初十三日講(鏡開き) 法要・法話

十一日(月)

中山法華経寺荒行堂参拝・新年御

祈禱。厄除け祖師本山堀之内妙法

寺参拝・御開帳

十七日(日) 新年写経会

午後一時半より

二月 三日(水) 節分会追儺式(豆まき)

午後一時より

馬込勘解由屋敷跡文化財説明板―その設立の経緯―

特別寄稿 石倉 知之

大伝馬町一之部町会(江戸時代から関東大震災までは大伝馬町二丁目、それから終戦少し後まで大伝馬町一丁目)の会長を仰せつかってから間もなく、この町会が出来てから四百年になる二〇〇六年が来ました。慶長十一(一六〇六)年に江戸城拡張のため、拡張域内にいた宝田村の住人が移転させられ、移った先が大伝馬町なのです。その引越しの采配を振ったのが、宝田村邑長の馬込勘解由(まごめかげゆ)でした。江戸草分名主の一人で、後に、江戸筆頭名主になったそうです(ついでに申し上げると、その時、隣村の千代田村の住民も引越しさせられました。その引越し先が小傳馬町なのです)。

四百年の祝賀会をする前に「四百年」は本当だろうかという疑問に答えるため、古文書調査を開始しました。最初に訪ねた江戸東京博物館の竹内誠館長に、まずこれを読みなさい、と教えられたのが北島正元編著『江戸商業と伊勢店―木綿問屋長谷川家の経営を中心として―』(吉川弘文館、昭和三十七年四月初版刊)でした。この本は、伊勢松坂の長谷川家のご本家に毎月江戸から送られてきて、保存されていた膨大な資料(それ故、天明の大火にも、関東大震災にも、東京大空襲にも遭わなかった貴重な資料)を基に書かれた長谷川商店の経営史でありますが、その第一章第四節「大伝馬町と傳馬役」の中に、幕府の傳馬役御用は、傳馬役所において取り扱われ、この役所は、大伝馬町の名主宅に置かれたと書かれてあります。これが馬込勘解由の家であり、大伝馬町二丁目(現大伝馬町一之部町会)の北側(現えびす通り)、かみの横町(現在の本町三丁目東町会と大伝馬町一之部町会の間の南北に抜ける道)東側と書かれてあります。

さらに、平成五年六月十日に中央区教育委員会から出版された「中央区沿革図集・日本橋編」で紹介された「寛保沽券図」寛保四年(一七四四)に、当時の大伝馬町二丁目北新道(きたしんみち)(現在の伝馬町一之部町会)

びす通)の北西角に、名主馬込勘解由の屋敷があったことが書かれてありました。

また、平成二十一年(二〇〇九)三月に江戸東京博物館・高山慶子専門研究員により「大伝馬町名主の馬込勘解由」(『東京都江戸東京博物館調査報告書』第二十一集)が発表され、馬込勘解由につき詳しく知ることが出来ました。

馬込勘解由は、大伝馬町としては由緒深い方でありますので、そのことを誇りに思い、平成二十二年春に、その屋敷跡を顕彰する何かを建てたいと考え、中央区に文化財説明板の設立を申請しました。石島秀起中央区会議長のお口添えもあり、中央区教育委員会により、「馬込勘解由屋敷跡」の和文・英文による文化財説明板が、その年のべつたら市に間に合うように、平成二十二年九月二十六日に設置されました。

その位置の説明板は、べつたら市の日には屋台の陰になり、見にくいことと、それ自体それほど大きくなく、人目に付きにくいので、その和文(一行の字数も元文と同じく揃えた)と英文の文面を数倍に拡大したものを、べつたら市期間中、寶田恵比寿神社前に展示しています。べつたら市の人ごみの中で、多くの方々(外国人も)が、これを見てくれています。



馬込勘解由屋敷跡文化財説明板
Magome Kageyu residence site

◇石倉知之(いしくら・ともゆき)

昭和五年日本橋大伝馬町生まれ。東京大学で、農芸化学を専攻。卒業後、現メルシャンに入社して発酵製造を研究。この間、アメリカに留学。現在、地元で貸しビル業を営む。大伝馬町一之部町会長を十年間にわたって務め、大伝馬町の活性化に尽力した。別院檀家の野田家の親戚に当たる。農学博士。